

機種をお選びいただく前に

■用途や機械の足まわりに関して

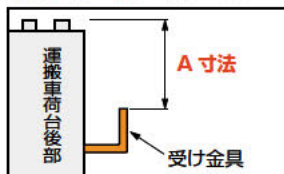
建設機械 農業機械 オートバイ 他

●鉄シュー ●ゴムシュー ●振動ローラー ●タイヤ

■機械の重量は何トンですか？

■運搬車両に受け金具の有無

●ツメタイプ 受け金具がついている時 (A寸法突起部がある場合は突起部から計る)



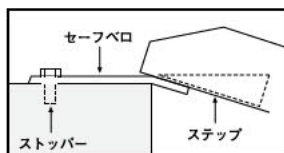
A寸法とは・・・

A寸法とは運搬車の荷台後部の受け金具の上部から荷台床面までの高さを表します。ブリッジを使用するときの運搬車後部の受け金具A寸法は、高さ50ミリで設置してください。

KB・SXN型の場合は

A寸法 最低70mmで設置してください。

●セーフペロタイプ 受け金具がついていない時

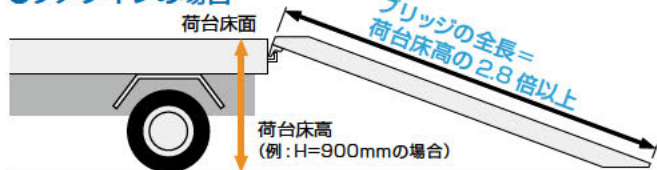


セーフペロの折れ曲がり部まで荷台に掛けた後、セーフペロの穴にあわせて運搬車の荷台に穴を開け、付属のストッパーを通してご使用ください。

■最適な`長さ、をお選びください。

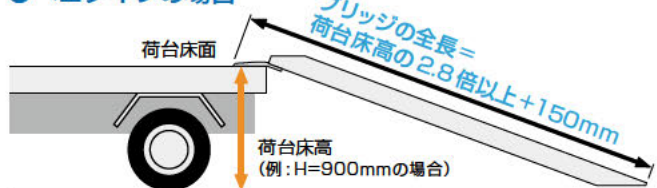
ブリッジ選定方法はP11を参照してください。

●ツメタイプの場合



例1) 900mm×2.8=2,520mm
ブリッジ全長2,520～ブリッジをお選びください。
(2.8倍で約21度の登坂角度になります。)

●ペロタイプの場合



例1) 900mm×2.8+150=2,670mm
ブリッジ全長2,670～ブリッジをお選びください。
(2.8倍で約21度の登坂角度になります。)

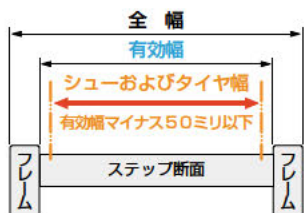
※軽トラ 平均荷台高さ 650mm

1.5t ダンプ 平均荷台高さ850mm

2～4t ダンプ 平均荷台高さ850～1050mm

■最適な`幅、をお選びください。

お手持ちの建機・農機のシューおよびタイヤ幅が各表中の有効幅マイナス50mm以下であることをご確認いただき型式を確定してください。



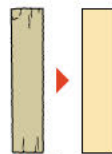
！安全にご利用いただくために

■積載重量をお守りください。

表示されている積載重量以上の作業機の昇降には使用しないでください。特に積載車両にアタッチメントを装着した場合は、作業機全体の重量にご注意ください。

■板材に関して

上板は本体との緩衝材の役目ですが消耗品ですので傷みの激しいものはお早めに交換するよう、おすすめします。ローラーをご使用の場合は、昇降時にすべる危険がありますので、ウインチ等をご使用ください。



■ツメは確実に取り付けてご使用ください。

●ツメタイプ

必ず受け金具にかみあっているか、受け金具の底部にフック先端があたっていないかを確認してください。

●セーフペロタイプ

トラックの荷台後部にペロの根本がくるようにセットし、ペロの先端が荷台と接触しているか必ず確認してください。

ブリッジのズレ防止の為に、荷台後部にペロの穴に合わせてφ18の穴をあけ、付属のピンをさしてご使用ください。(左図ペロ式図参照)

なお、セーフペロタイプは平ボディ車、ダンプカー用です。

セルフ車には使用できません。

■ブリッジ長さは荷台高さの2.8倍以上でご使用ください。

トラック等の荷台に取り付けた時、荷台の高さの2.8倍以上の長さのブリッジをご使用いただければ、ほぼ最適です。(左図参照)

■ご使用前にブリッジの異常の有無を確認してください。

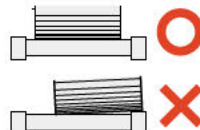
ご使用前には必ず細部の点検確認をしてください。

万一、損傷、亀裂、ヘコミ、ネジレ等がありましたら、積載車両の登坂中にブリッジが破損する恐れがあり、大変危険ですのでご使用をおやめください。

■フレームへの乗り上げ走行は、しないでください。

ブリッジのフレーム上に車輪、機械が乗り上がらないように注意して走行してください。

偏荷重の発生からブリッジの破損の原因となる恐れがあります。(※GPL型除く)

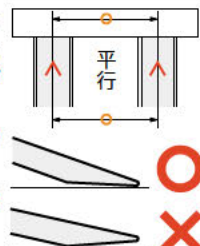


■加工や改造は行なわないでください。

熱を加えた溶接等の加工やその他の改造は強度不足の原因になりますのでおやめください。ブリッジのヘコミ等損傷の大きい場合は、お早めに新しいものとお取り替えくださるようおすすめします。

■ブリッジのセットに注意してください。

トラック等に取り付けたあと、使用する前にシュー、ホイールのセンターが、ブリッジの中心にくる様に左右を平行にセットし、左右のブリッジに均等に荷重がかかるようにご使用ください。左右の端部が地面に接地しているか、フックが正常にかかっているかを確認してください。軟地、坂道等での使用はさけ、堅固で平らな地面の上でご使用ください。



■静かに昇降してください。

作業機の昇降時に急発進、急ブレーキ、急ハンドル等はブリッジの運搬車からの脱落につながり、大変危険ですから行なわないでください。横桟(ステップ)の破損要因になりますので、下降時、機体後部だけ掛かった状態になりましたら、特にゆっくり走行してください。

■必ず乗降する人と、それを誘導する人の2人で作業してください。